

中国語の声調指導における 視覚的補助に関する予備実験

橋 本 愛

1. はじめに

「発音良ければ半ば良し」とはよく言われるが、中国語学習者にとって一番の難関は発音だろう。こと声調に関しては、中国語学習者が一番最初にぶつかり、悩まされ続ける難点である。

中国語は声調言語で、一音節に音の上がり下がりがあり、たとえ同じ声母・韻母であっても声調の違いによって意味が異なるため、声調を正しく読むことが要求される。しかし日本語が声調言語ではないこともあり、日本語母語話者の中国語学習者が声調を習得するには時間を要する。「第2声と第3声の区別がつかない」「練習すればするほど、余計に分からなくなる」など、何度も学生に訴えられてきた。また、中国語の発音を表すピンインでは、どちらかという、声調よりもピンインのアルファベット部分にばかり気を取られ、声調は見えていない、という学生まで出てきてしまい、頭を抱えてしまったこともある。

何とかならないものかと、声調が安定しない学習者に気を付けて発音してもらうために、市民講座などで少し手法を変えて指導を行ったところ、なかなか好評を得、実際に改善も見られた。今回は、その際用いた方法を長期的な指導に用いるわけではなく、「一時的であっても声調発音の補助となり得るか」確認するために調査を行い、その結果をまとめたものである。

2. 先行研究

多くの教科書で声調は一番最初に出てくる。声調の音の高さを5段階で表示するものもあれば、音の高低を示すのに図1のような図が掲載されており、合わせて軽声の音の高さについて図式化しているものもある。

声 調

四声	第1声	第2声	第3声	第4声
	ā	á	ǎ	à

軽声 前の音節に続けて軽く短く発音する。声調符号はつけない。

	māma	máma	mǎma	màma

図1：劉穎、喜多山幸子、松田かの子（2008）
『1冊めの中国語』会話クラス

発音強化に重点を置いた書籍でも、図2のように声調の高さを矢印で示したり（図2：左）、線などを用いず、ピンインを細分化し、それを当てはまる高さに置く（図2：右）ようなものもある。

<p>开汽车</p> <p>kāi qìchē</p>	<p>④ 第二声 + 第一声</p> <p>qiánbào</p> <p>钱包 (財布)</p> <table border="1"> <tr> <td>高</td> <td>ん</td> <td>バ</td> <td>オ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>n</td> <td>ba</td> <td>o</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>チ</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低</td> <td>qi</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	高	ん	バ	オ		n	ba	o	中	チ			低	qi			<p>yuángōng</p> <p>员工 (従業員)</p> <table border="1"> <tr> <td>高</td> <td>ん</td> <td>ゴ</td> <td>ん</td> </tr> <tr> <td></td> <td>n</td> <td>go</td> <td>ng</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>ユ</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低</td> <td>yu</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	高	ん	ゴ	ん		n	go	ng	中	ユ			低	yu		
	高	ん	バ	オ																														
		n	ba	o																														
	中	チ																																
低	qi																																	
高	ん	ゴ	ん																															
	n	go	ng																															
中	ユ																																	
低	yu																																	

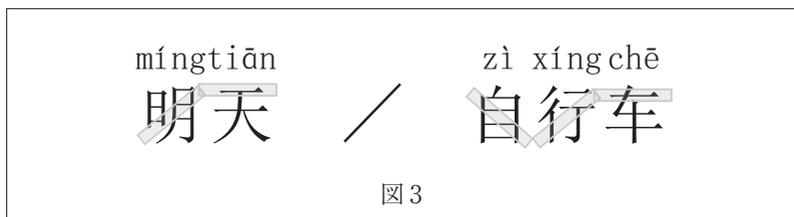
図2：左：清原文代(2007)『リズムで学ぶ三文字中国語』
右：高田裕子(2014)『中国語発音マスター』

声調学習の援助として、胡玉華・宇野忍（2005）では「音声」に加えて「アクション」させるという実践において、効果があったことが述べられている。ただ、論文中でも触れられているように、クラス全員の前で大きなアクションをすることに抵抗がある学生もいることは確かで、実際に筆者も試したことがあったが、そのクラスでは残念ながら上手くはいかなかった。

また胡玉華・宇野忍（2005）では、声調の違いを図解・グラフ化して示す方法について、現実には必ずしも有効に機能しているとは言えないことを指摘している（胡・宇野 2005：542）。しかしながら、入門・初級の教科書では必ずと言って良いほど図1のような図があり、いわゆる「発音強化」を目的とした書籍にも散見され、筆者も、このような「視覚的な手がかり」は一定の効果があるものとする。

3. 本調査の目的

以上のことから、今回は、「視覚的な手がかり」の一つと言える声調を示す「バー」を文字と重なるように印字し（図3参照）、ないときと比べ、学習者の声調が正しくなるのか、発音をする際のガイドとなりうるか、その効果を調べるための簡易的な調査を行った。



これは、文字とは別に声調を示す矢印等を併記する方法は「(音の高さの変化を) イメージしづらい」という学習者の声を参考にさせていただいた。最終的に、学習者の声調習得の援助となることが目標である。

4. 調査方法

今回は、現在中国語を履修している中国語学習歴1～2年の学生、男女8名に協力してもらった。いずれの学生も大学入学後、授業を通じて中国語を学んでおり、本学の授業以外に中国語の受講時間はない。学生には、中国語が書かれた紙を順番に渡すので、それを読むよう指示をした。実際に学生に渡したものは、(1)一音節の数字、(2)二音節の語、(3)三音節の語・フレーズ、(4)文の4種類(末尾の資料参照)で、今回は「視覚の手がかりの付与によって、声調を正しく読めるようになる」という仮説を立て、それぞれ通常の教科書と同じ形(A)と、その漢字の上に「バー」を加えた形(B)の2パターン準備し、それぞれ学生に読んでもらい(図4参照)、どれほどの効果が見られるかを検証した。音声は録音をし、後日、中国語教員(中国語母語話者)と筆者で別々に評価し、読まれた単語の声調が正しいかどうかを判別した。判別する際は声母・韻母の読みについては問わず、声調のみで判断した。



5. 結果

以下の表1は、調査結果の正答率である。

	一音節		二音節		三音節・フレーズ		文	
	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり
A	65%	85%	42%	53%	69%	56%	53%	50%
B	100%	100%	67%	53%	61%	42%	66%	70%
C	100%	95%	83%	78%	78%	72%	78%	83%
D	100%	100%	67%	72%	89%	94%	94%	70%
E	100%	100%	86%	89%	92%	92%	92%	92%
F	85%	80%	72%	83%	56%	58%	72%	63%
G	70%	80%	61%	61%	56%	53%	58%	59%
H	80%	70%	56%	75%	53%	36%	70%	77%

表1：調査結果の正答率

全体的にみると、視覚の手がかりがあることで、正確に読めるものが増える傾向にあるようであるが、「視覚の手がかりの付与によって、声調の正確さが大幅に改善された」とは言いづらい結果となった。残念ながら、文字上に声調の補助があるからといって、全てを正確に読めるようになるとは限らないようである。表1から補助がある場合とない場合の正答率は学生によって大きな差があることが分かるが、これに関しては、調査前アンケート及び調査後インタビューの内容を加えながら、次節で学生別に触れていく。

一音節には1～10の数字を用いたので、それほど抵抗はなかったようだが、二音節以上になると、見たことはあるものの、ピンイン表記と音が一致しないものが多かったようで、多くの学生が正確に発音できていなかった。読んでもらった語彙は、多くが教科書に複数回出てきたものであったものの、出現頻度が高いもの（“学习”“电脑”“大学”など）に関しては比較的正しく読めていたものの、出現頻度が低かったもの（“有名”“一下”“请问”など）に関しては、すぐに正しい音もしくは声調が結びつかなかったようである。

また、正答率・正確性には個人差も大きく、調査前に実施した簡単なアンケー

トでは、授業の予習復習はしないものの、普段から中国語に触れることが多い（YouTube で音楽を聴く、自分で勉強をする）と回答した学生は、ある程度正しい音が頭の中に定着しているようであったが、授業外で中国語に触れないと回答した学生は、その学生の読み方の癖（第1声か、最後まで真つすぐ発音できていない、第4声か下がりきれない等）が現れていた。

6. 考察

今回の学生の結果からは、大きく二つのことが言えそうである。一つは、文字上に印字された声調の補助を見ることで、本来の読みに気づくことができ、二度目はそれを意識して読むことにより、正しい声調で読むことができる、ということである。二つ目は、文字上に印刷された声調の補助を見ながら発音する際はその通りに読めばいいものの、声調の補助が無くなったときは、上がり下がりの具合を把握しきれないまま発音するので、間違ってしまうことがある、ということである。一音節の数字に関しては、一部の学生を除き、二度目に読んだ方が正答率が上がっている。二音節以上になると二度目に読んでもらった方の正答率が下がっている。調査後に学生にインタビューをしたところ、(1)の数字を読むときは、文字上に印刷された声調の補助を意識しなかったようだが、二音節からは声調の上がり下がりを表わすものであると認識でき、それに従って発音するよう心掛けた、との返答が寄せられた。

以下、調査前に記入してもらったアンケート、及び調査後にインタビューした内容を加えながら、学生別に見ていく。

6.1 学生A

調査結果では、一音節・二音節では補助があることで改善傾向にあるが、三音節や文になると、補助がある方が正答率が下がっている。

事前のアンケートでは、普段の授業の予習はしないが、復習は授業で分から

なかったところの確認をすると回答しており、中国語の勉強をする上では、ピンインが書いていないものを読むのが難しいと感じているようである。克服するために単語を覚える際、漢字と合わせてピンイン、日本語の意味も覚えるようにしているようであるが、克服できたわけではないようである。ピンインがあれば読めるが、声調はよく分からない、とのことであった。知識として四声の違いは把握していると思われるが、音節数が増えると、そのすり合わせが間に合わないのでは、と感じられるような読みであった。

6.2 学生B

調査結果では、一音節・文では補助があることで改善傾向にあるが、二音節・三音節では補助がある方が声調の正答率が下がっている。

事前のアンケートでは、中国語の勉強をする上で文字に苦手意識があると回答していた。そのため、それを克服するためにできるだけたくさん書いて覚えるようにし、覚える時には文字と意味と一緒に覚えるようにしているという。読みに関しては、ピンインが書いていれば（正しくはないかもしれないが）問題ないと述べている。声調の補助は最初の段階から気付いており、あった方が気をつけながら読めるので、その通りに読もうと思う、と話していた。学生Bは全体的に第4声が苦手なようで、間違いの多くは第4声であった。単体で発音する一音節では問題がなかったので、第4声がどのようなものか認識できていると思われるが、正答率の低かった二音節・三音節では、間違いの半分が第4声で発音するものであった。

6.3 学生C

調査結果では、全体的に補助がある方の正答率が下がっているものの、正しく発音できている語やフレーズは、比較的多い。

事前のアンケートでは、中国語の勉強をする上で発音（ピンイン）に苦手意識があると回答していた。特に、教科書などで出てきておらず、聞いたことが

ない単語を発音する時は、合っているか不安になるようだ。克服するためにできるだけたくさんCDなどの音声を聞くようにしているようだが、改善できたという実感はないという。声調の補助には早い段階で気づいたものの、基本的には、第3声の変調など注意が必要である場合を除いて、不要であると感じたようで、ピンインしか見ていなかったと話していた。

6.4 学生D

調査結果では、全体的に補助がある方が正答率が高く、文の場合のみ、補助がある方の正答率が下がっている。

事前のアンケートでは、中国語の勉強をする上で発音（ピンイン）に苦手意識があると回答していた。教科書などで繰り返し出てくる場合は問題ないものの、基本的には読み方を覚えるのが難しいため、ピンインに注目し、同じ綴りは同じ発音である、という覚え方で発音できているようである。確かに、二音節の単語以外では、ピンインのみで基本的には正確に発音できていた。声調の補助は、分からないものに関してはガイドとして使えるし、第3声の変調は考えれば大丈夫ではあるものの、文などであればあった方が良いとのことであった。

6.5 学生E

調査結果では、全体的に正答率が高く、ほぼ正確に読めていた。

事前のアンケートでは、中国語の勉強をする上で発音（ピンイン）が難しいと回答している。そのため、克服するために耳で覚えることを意識するようしており、実際に既習の単語などは克服できた実感はあるものの、知らない単語を見て発音することは、まだ難しいと感じているという。今回、8名の中で唯一「声調が違くと意味が変わり、異なる意図で伝わる恐れがあるので、正確に読まなければならない」ことに言及した学生であった。今回読んでもらった単語の中では、“一件事”の“事”は調査を行った時点では未習であったもの

の、“是”と同じピンインであったため発音をイメージしやすかったという(因みに“一件事”の“件”も調査を行った時点では未習だったが、“jiàn”と発音する語は出てきていなかったため、正しく発音することはできなかった)。また、未習の“欢迎”はイメージできなかったというが、声調の補助があると正確に発音できおり、ないと不正解になっていた。声調の補助は、第3声の連続などは気づきになり、ガイドとして使えるので、あった方が良いと述べていた。

6.6 学生F

調査結果では、二音節・三音節では補助があることで改善傾向にあるが、一音節・文では補助がある方が声調の正答率が下がっている。

事前のアンケートでは、中国語の勉強をする上で文字(漢字)が難しいと回答している。声調の補助は、あった方が良いかもしれないが、気持ちが引|っ張られるため、ない方が良いとのことであった。

6.7 学生G

調査結果、声調の補助の有無にはほとんど左右されていないことがわかる。

事前のアンケートでは、中国語の勉強をする上で発音(ピンイン)が難しいと回答しているものの、克服するために特に工夫していることはないという。声調の補助は、知っている単語であれば何となく読めるが、できればあった方が良くいと述べていた。

6.8 学生H

調査結果、声調の補助の有無にはあまり左右されていないようであるが、三音節のみ、声調の補助があることで正答率が大幅に下がっている。

事前のアンケートでは、中国語の勉強をする上で発音(ピンイン)が難しいと回答しており、特に声調について、長く読んでいると上がるのか下がるのか

など、読み方が分からなくなってしまうという。また、ピンインで“qi”のように音と表記が一致しづらいものに関しては戸惑ってしまうようである。今回の調査では、声調補助は目に入らず、最後の方によく気付いたという。補助はあった方が分かりやすいものの、声調補助よりもピンイン（アルファベット部分）を気にするようであった。

今回は、事前に「中国語の紙を順番に渡すので、それを読んでほしい」とだけ伝え、その場で紙を渡して、合図とともに読んでもらったため、正しく読めない事もあった。中には声調は気にしない、補助も見なかったという学生もいて驚いた。また、ピンインを見た瞬間、「読めなかったらどうしたら良いか」など不安な声も聞かれた。今回調査に協力してくれた学生は、少なくとも80時間の学習を終えており、声調をきちんと把握できていると思われたが、声調に高低差や上がり下がりがあることは理解できているものの、自身の声の高さではどのような出し方をすればよいかまで把握している学生は少なかった。

7. 今後の課題

全体的にみると、視覚的手がかりの付与があることで、正確に読めるものが増える傾向にあるようである。以前試した際は、漢字に重ねて印字してある「バー」が声調であることを伝え、それに従って読むよう練習していたため、ある程度の効果が見られた。今回は、「バー」が声調を表していることを学生に伝えず、「日本語母語話者の中国語学習者の発音の調査をする」ことしか知らせなかったため、どこに注目してよいか分からなかったと思われる。もしかすると、「バー」を意識させることで、今回とは異なった結果が得られるかもしれない。

また、録音する際の環境は筆者と1対1だった上、その場で与えられた中国語をすぐに発音しなければならないなど、学生にとってはかなり緊張した状態

で調査に臨む形となってしまったようである。実際、録音後に発音しなおしていた読みは正しかったので、事前にもう少し詳しい内容を伝え、緊張しづらい環境で取り組みれば、違った結果になっていただろう。

今後は、「バー」がある状態で練習を重ね、声調が正しく発音できるようになった後、それはどの程度持続するのか、また、「声調は気にしない」と言った学生は、果たして読むときにどこを注視しているのか、可能であればアイトラッキングの調査なども行ってみたい。

参考文献

- 清原文代 (2007) 『改訂版 リズムで学ぶ三文字中国語』, アルク
- 胡玉華・宇野忍 (2005) 「日本人の中国語初学者に声調学習を援助する際の効果的方法に関する研究—構成法的な仮説検証法を用いて—」, 『教育心理学研究』第53巻第4号, pp. 541-550
- 高田裕子 (2014) 『中国語発音マスター』, 大修館書店

謝 辞

今回、本稿の作成にあたり、調査に協力してくれた8名の学生に深謝の意を表す。

資料：音読原稿 ((1)~(4))は、それぞれ別の紙に印刷し、「バー」の有無で
合計8枚用意した)

yī èr sān sì wǔ
一 二 三 四 五

(1)

liù qī bā jiǔ shí
六 七 八 九 十

míngtiān cí diǎn yǒumíng
明天 词典 有名

(2)

diànnǎo huānyíng yí xià
电脑 欢迎 一下

xué xí qǐngwèn dà xué
学习 请问 大学

zì xíngchē dǎ diànhuà
自行车 打电话

(3)

nín guì xìng? wǒ xǐ huan.
您 贵姓? 我 喜欢。

duōshao qián? dà jiā hǎo!
多少 钱? 大家 好!

jīntiān jǐ yuè jǐ hào? hái méi chī fàn.
今天 几 月 几 号? 还 没 吃 饭。

(4)

zhè ge zěn me yàng? wǒ shuōcuò le.
这 个 怎 么 样? 我 说 错 了。

gěi wǒ kàn yí xià ba. gēn nǐ dǎ tīng yí jiàn shì.
给 我 看 一 下 吧。 跟 你 打 听 一 件 事。